

(3) 化学 (医薬品を除く)

19 / 18 20 / 19
: 天気図マーク;

伸び率 10%以上 ● 伸び率 0 ~ 10%
伸び率 0 ~ 10% 伸び率 10%以下

1. 企業経営動向 (需要、生産・設備投資、企業収益、財務)

(1) 需要

石油化学基礎製品・誘導品 (エチレン、プロピレン、ポリエチレン等) の内需については、底堅い民間需要を背景として現状の水準で推移する見通し。外需については、中国を中心とするアジア地域の景気拡大による旺盛な需要が予想される。ただし、中国及び中東を中心に大型プラントの新增設計画が引き続き予定されており、今後、これらが本格稼動するとアジア地域の需給が緩和されるため、輸出機会の減少が見込まれる。

また、機能性化学製品については、国内外の最終製品の市場拡大に伴い、液晶・半導体関連部材を中心に価格低下が継続するものの、引き続き需要は好調と見られる。

(2) 生産・設備投資

石油化学基礎製品・誘導品について、国内においては、エチレン系誘導品等の製造プラントの新增設計画はほとんど予定されていないが、アジア地域においては、需要が旺盛な芳香族製品 (ベンゼン、キシレン、パラキシレン) の製造プラントの新增設計画が検討されている。

また、機能性化学製品については、液晶・半導体関連部材での旺盛な需要に対応すべく、引き続き国内外での積極的な生産能力の拡大を図るため、生産・設備投資の拡大が見られる。

(3) 企業収益

19年度の収益状況

主要化学企業の決算概況としては、石油化学基礎製品・誘導品事業では原油・原材料価格高騰の影響により、売上高は増加したが、価格是正が追いつかず、減益に転じている。

一方、機能性化学製品事業では、全体としては増収増益である。しかしながら、半導体関連部材については、メモリー増産や微細化の進展による旺盛な需要に支えられているものの、市場環境の変化、在庫調整、価格競争等の影響により利益幅が縮小しているため、収益状況にバラツキが見られる。

今後の収益動向の見通し

石油化学基礎製品・誘導品については、原油・原材料価格高騰の継続等による利益幅の縮小が見込まれる。

また、機能性化学製品では、成長分野への経営資源投入や、国内外での積極的な拡販等により、引き続き増収を維持しながらも、利益幅としては微増を見込んでいる。

(4) 財務

主要化学企業の有利子負債については、設備投資等の拡大を背景として、前年度よりも増加している。特に機能性化学製品事業への重点投資の動きが目立つ。

2. 設備投資動向 (18年度実績、19年度実績見込、20年度計画)(グラフ1参照)

(1)これまでの設備投資の推移

18年度は、更なる原油・原材料価格の高騰等の影響を受けつつも、積極的な投資の効果で石油化学(前年度比60.7%増)を中心に伸長し、化学工業全体では前年度比18.0%増と3年連続の増加となった。

19年度は石油化学(前年度比3.7%減)などが減少しているが、業界全体では前年度比+3.6%増と増加基調にある。

(2)平成20年度の設備投資計画(化学工業[医薬品を除く]延べ85社ベース)

・20年度は、前年度比19.4%増の7,489億円となる見通し。

・石油化学は減少するものの、全体では引き続き増加。また前期に比べ、伸び幅は増加する見込み。

・投資目的別では構成比に大きな変化は見られないが、環境関連投資の全投資額に占める割合が微増しており、環境関連投資に積極的な姿勢が示されている。

3. 長期資金調達・運用動向(長期資金運用動向、長期資金調達動向)

(1)長期資金運用動向

20年度における長期資金需要額は8,578億円(前年度比+32.6%)。うち、設備投資所要資金額は、6,165億円(前年度比+18.5%)で、長期資金需要額全体に占めるウェイトは71.9%(前年度80.4%)となる見通し。

(2)長期資金調達動向

長期資金調達の内訳は、好調な業績を反映して、自己資金(内部資金)が7,824億円(前年度比+14.3%)。また、有利子負債については、社債は償還超過から資金調達に転じる見込み。また、借入金も返済超過から資金調達に転じる見込み。

(グラフ1:設備投資の前年度比の推移)

